

新しい入退院支援部門を
よろしく願いいたします



2019年2月より、医療福祉連携相談室の入退院支援部門の体制を強化しました。

ベッドコントロール師長を鹿島から鈴木に交代しました。また、医療ソーシャルワーカー6名と退院支援看護師も2名から4名に倍増しました。もうしばらく病院

建設工事が続き、ご不便をおかけすることもあるかと思いますが、入退院機能の充実を図り、皆様方のご要望に今まで以上にお応えできるよう努力いたします。

今後とも、よろしく願いいたします。

経済的な困難を抱えた方々の受療権を守る一助として
無料低額診療事業のパンフレットを一新しました

城北病院・診療所は、無料低額診療事業の認可を受け、これまでも医療費が支払えず受診できない方々の一助となるよう、無料低額診療事業の活用を促進しています。

無料低額診療事業とは「生計困難な方が、経済的な理由によって必要な医療を受ける機会が制限されることのないよう、無料または低額な料金で診療を行う事業として、社会福祉法に位置づけられている事業です。

「どんな制度かわかりづらい」「どんな人が対象になるのかわかるものがないのか」などご意見をいただくことも多かつたため、今回新しいパンフレットを作成いたしました。

新しいパンフレットには、申請の流れや対象になると思われる基準（就学援助を受けている世帯や住民税非課税世帯、限度額適用・標準負担額減額認定証「区分Ⅰ・Ⅱ」「区分エ・オ」をお持ちの方など）が記載されています。

受療権保障の一助のために、新しいパンフレットを利用いただければ幸いです。



発行 城北病院 医療福祉連携相談室

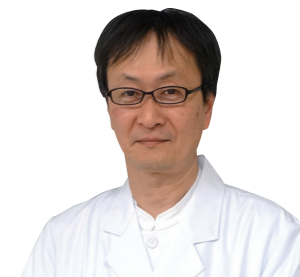
〒920-8616 金沢市京町 20-3
TEL 076-251-6111 FAX 076-208-5231
http://jouhoku-hosp.com
E-mail renkeisitu@jouhoku.jp



私たちが
めざすもの

医療福祉宣言
城北病院 城北診療所 2015

- 1 患者の立場に立ち、インフォームドコンセントを大切にします。
- 2 専門的な力量向上に努め、安全安心の医療・福祉の提供をすすめます。
- 3 すべての人々の健康づくりを支援し、安心して住み続けられるまちづくりに努めます。
- 4 人権を守り無差別・平等の医療・福祉をめざします。



城北病院 院長 大野 健次

地域の皆様のご期待に込めて

城北病院の新病院建設も佳境に入り、5年近く続く建設も後1年あまりを残す所までこぎつけました。最終的なオープンは2020年春ですが、目玉である緩和ケア病棟は2019年5月から運用を開始する予定です。緩和ケア病棟は20床全室個室ですが、当院の信条でもある無差別平等の医療を推進するために差額ベッドなしで利用して頂きます。

政府は2025年問題に向けて地域医療構想を推し進めていますが、医療介護福祉に関してはかなり抑制する一方で軍事費は増大させる政策をとっています。2019年1月には厚労省の「毎月勤労統計の不正調査問題」が発覚しました。統計というのは、すべてのものを考える土台となるものですが、このことが根源から揺らいだ重大な問題です。政府が意図的に誘導しようとしている事が垣間見ることができます。

医療介護の分野でも同じで、医療費・介護費の削減に向かい、「思想誘導」されているように思います。特に高齢者に対する胃瘻バッシングなど典型的なものですが、ACP（アドバンス ケア プランニング）についても愛称を募集し、厚労省は「人生会議」としました。この事で本腰をいれて、厚労省はACPを推し進めようとしています。ACP そのものが悪いといっているわけではありませんが、この事を医療費削減に利用しようとしている考えが問題です。今後は本来の意味をしっかりと理解しながら自身の最終段階について考える必要があります。また、考えない自由も当然ありますから、自分の最後を考えたくない人は考えない事で他人から批判される言われは全くありません。

今後は2040年頃をピークに死亡者数が増え続ける多死社会を迎えていきます。癌で亡くなる人が最も多い事を考えると、当院の緩和ケア病棟はわずかに20床ですが、ご利用者様や家族の少しでも支えになればと思っております。当院は300床の急性期病棟 救急病棟 回復期リハ病棟 地域包括ケア病棟 療養病棟をもつ複合的な病院です。地域の皆さまのご期待に応えられるような形で病棟を変遷させてきました。この地域から離れない事を決意して現地建て替えとしています。地域医療構想のもと、病院経営は追い詰められていますが、皆様のご支援を受けてなんとか頑張りたい所存ですのでよろしく願いいたします。

特集 1

新病院建設第三期工事 12月完成 新西棟が完成しました



新病院建設は現在、第三期工事が 2018 年 12 月に完成を迎えました。

2/1 に新西棟への引っ越しを行い、病棟として運用され始めました。1 階は救急病棟（10 床）、2 階に地域包括ケア病棟、3 階に内科急性期・小児科病棟、4 階に外科急性期病棟として運用開始となり、5 階は緩和ケア病棟として 5 月から運用開始を予定しています。

また、地域の方々を対象にした新病棟への見学会を 1 月に行い、150 名を超えて参加いただきました。また、緩和ケア病棟の見学会を別途、3 月下旬に予定しております。多くの方々にご覧いただければと思っております。



特集 2

緩和ケア病棟 開設します



緩和ケア病棟プロジェクトリーダー
（城北病院外科）
三上 和久



2016 年 4 月に着工し、2020 年春に完成予定の新病院建設（現地建て替え）も予定通り工事が進み、現在約 3/5 の工期を終えました。第 3 期工事が終了してメインの病棟が完成したため、2019 年 5 月から待望の緩和ケア病棟を開設いたします。がんによって引き起こされる患者と家族の様々な苦痛に対する緩和ケアは、今やどの医療機関においても必要とされる医療です。当院におきましても、緩和ケア病棟開設前には外科病棟などを中心に緩和ケアを行ってきました。では、緩和ケア病棟ができることで何が変わるのかを考えてみました。

今までは外科病棟で緩和ケアを行ってきたために、同じ病棟には手術を受ける方もいれば化学療法を受けている方もいます。外科病棟は動態も多くバタバタした病棟ですので、そのような環境下では落ち着いた緩和ケアを受けることがなかなか困難であると以前から感じていました。今回の緩和ケア病棟は、新病棟最上階の 5 階ワンフロアすべてが緩和ケア病棟になりますので、患者さんはみなさん同じようなご病状の方ばかりです。また、当院の緩和ケア病棟は全床個室の 20 床で、差額ベッド代はありません。このように、患者さんの療養環境が改善されるという大きなメリットがあります。また患者さんに付きそご家族にも環境面での変化は大きく、患者さんと一緒にくつろぐことができるデイルームがあること、泊まり込みができる家族控室が 2 部屋あること、面会時間の制限がないことなどのメリットがあります。また緩和ケア病棟で働くスタッフは、緩和ケアを得意とする医師、緩和ケア認定看護師を中心とした看護チーム、経験豊富なコメディカルが集まったのチームアプローチを行っていき、今まで以上に質の高い緩和ケアを提供できると思います。

